



# 「安倍政権にいかに向かうか」

2014 全国教職員学習交流集会 in 北九州  
11月22・23日

初日は全体会と分科会、二日目は分科会で熱心な討論が行われました。全体会では、一橋大学の渡辺治先生が「戦争する国」に向け暴走する安倍政権にいかに向かうか」という演題で講演されました。その内容は、安倍政権のアメリカ、財界の要求を越えたこれまでと異なる政権であること、安倍政権が目指す軍事大国化、安倍「教育再生」にこだわる狙い、そして我々国民がどのようにして対峙していくべきかが明快で元気がもたれる話でした。以下はその概要です。



【オープニングセレモニー】

11月22日、23日に北九州市で行われた「2014全国教職員学習交流集会 in 北九州」に長崎高教組から12人が参加しました。全国から350人近くの教職員が組織を越えて北九州に集まり、初日は全体会と分科会、二日目は分科会で熱心な討論が行われました。

冷戦終焉以来4半世紀に及ぶアメリカの圧力に耐えるため、安倍政権は集団的自衛権をどうしても必要と考えている。しかし、憲法9条と考えている。障害物となり、さらには明文改憲は九条の会などの国民の運動でつぶされ挫折。この失敗が怖いのが、自衛隊の海外武力行使、米軍との共同作戦、米軍の戦争に荷担する体制作りを解釈改憲で乗り越えようとしている。海外で武力行使をするには自衛隊法、周辺事態法、武力攻撃事態法、PKO協力法改正を統一地方選挙後、15年の通常国会で一斉に

# 県教研に「新しい風」

未組の青年教職員 5人参加  
のべ90人の参加



11月28日・29日の両日、長崎高教組・長崎私教連第62次県教育研究集会を諫早市「高城会館」で開催しました。

今次教研は、昨年の冬季教研、今年の夏季教研の流れを受けて「生徒を学びの主体とする授業づくり、身につけさせたい学力とは何か」を追求し、未組青年教職員も参加し学習できる「ひらかれた教研」として開催しました。



1日目の全体会では、この2年間の安倍政権の「教育再生」が意味することを、一橋大学大学院教授中田康彦さんが「安倍流『教育再生』の影響をどう読み、どう向かい合うか」をテーマに記念講演しました。民意の信託というレトリックで批判的な声や言説を封じ込め、憲法理念を否定する安倍政権の政治手法に対し、特に高校生に身につけてほしい力、自分のことに引きつけて考える力をつける、ということが今まさに後期中等教育の課題であり

重要なとりくみであること示唆されました。講演会には39人の参加がありました。「安倍教育改革は障害児学校でも無縁ではないとは思っていましたが、『自己責任』とか、『〇〇力』とかの説明にドキッとする部分がたくさんありました」「少し難しかったですが、『つながる』ことがどれだけ大切かを体験として覚えさせるといのがキーワードだったように感じました」等の感想が寄せられました。

2日目の教科別分科会の参加者数とレポート数は別表のとおりです。特徴的なこととして、外国語、国語、芸術教育で未組の青年教職員5人の参加があり、商業科教育も民主教育推進委員の積極的な参加呼びかけのもと4人が参加する

	参加者数 (うち未組)	レポート 数
国語教育	8 (2)	2
外国語教育	9 (1)	4
社会科教育	7	5
数学科教育	8	6
理科教育	9	6
芸術教育	5 (2)	1
商業科教育	4	1
保健体育科教育	1	0

など、「新しい風」を肌で感じることができました。

安倍政権は、アメリカ、財界が今までできなかった「秘密保護法、集団的自衛権、原発再稼働、消費税増税、TPPなど」を実現してくられる待望の政権である一方、「靖国神社参拝、慰安婦問題の否認、河野談話・村山談話の見直し」など、アメリカ、財界の言いなりにならない顔もつ今までの政権とは異なる政権である。2つの顔に共通していることは、安倍政権は軍事大国化を目指しているということ。

安倍政権は「消費税率引き上げ」「原発再稼働」「TPP」を先延ばしして白紙委任をとり、大国化にめどをつける長期政権の野望を実現するため解散、総選挙に今うつて出た。私たちがこの安倍政権を倒さなければならぬ。それも第2の安倍が登場しないようにスキヤンダルではなく、国民的共同で倒すことが大切。「運動が政治を変える。改憲を阻めば政治が変わる。安倍教育再生とも対峙できる。」と締めくくられた。

二日目の「教職員の生活と権利」分科会に西陵分会・錦戸輝将さんが超勤関係、「憲法・平和・核廃絶と教育」分科会に大村城南分会・大崎豊美さんが平和集会、執行委



員長・鳴滝通信分会・小田誠さんが「憲法を守り、いかす赤龍」に関するレポートを発表しました。

国民共同のとりくみで、今度の総選挙で安倍政権に大きな打撃を与えたいという気持ちが強くなりました。

全国的に超勤問題、過労死問題が論議されており、進学校での超勤の実態を明白にした錦戸レポートは高い評価を得ました。また、大崎レポートは、長崎の平和学習の質の高さを再確認させ、同時に父親の戦争体験をベースにした平和学習への思いは、現在の政治情勢の中で忘れてはならないものとして参加者の共感を得ました。

## 釣り大会 大盛況

朝日がとてまぶしい、世の中は勤労感謝の日、三連休の中、ここ鹿町のジャンボフィッシング村には、大物を釣ろうと狙っている人たちが続々と集まってきました。実はこの釣り堀には、よくつれる場所、なかなか釣れない場所があり、どの場所を選ぶかは運任せという感じでした。

釣り場はとてまぶしくりしっており、安全に快適に釣りを楽しむことが出来ました。釣れたのは、1kg程度の大きなマダイ、シマアジでその引きの強さに、糸を切られた人もいたくらいでした。多い人は、マダイを4匹釣った人もいて満面の笑顔でした。結果、大物賞は諫早高校の土橋先生、大漁賞は佐世保工業定時の橋本先生と佐世保東翔高校の井手先生が受賞されました。中には、あまり釣れない場所に入った人もいたために全く釣れなかった人もいました。が、日々の忙しさを忘れ、ゆつくと釣りをできたことは、皆さんにとつて有意義に時間になったのではないのでしょうか。このような場をつくらせていただき、きっかけになった、全教共済の「集いあい促進費」に感謝します。(入場料通常3500円を負担してもらいました)

このタイは、とてもきれいな色をしていて、とても美味しいので有名です。釣れなかった人も、最低1匹は持ち帰ることは出来ました。この日の夜、美味しいタイの刺身で晩酌をされた方も多かったのではないのでしょうか。

今回、このような企画をさせていただきましたが、来年も「集いあい促進費」が継続されれば、皆さんが喜んで参加したいと考えています。期待していきください。

佐世保支部支部長 佐藤智之